

結成30周年記念
第28回遠野少年少女合唱隊発表会

記念コンサートで プロと共演

発表会は11月12日にあえりあ遠野中ホールで開催され、会場を訪れた130人は澄んだ歌声に聞き入りました。発表会は2部構成で行われ、第1部では5歳から中学2年生までの隊員15人が、日頃の練習の成果を発表。隊員たちは、遠野に伝わる童謡やわらべ歌など11曲を元気よく歌いました。第2部では、合唱隊結成30周年を記念し、ソプラノ歌手の千石氏やバリトン歌手の磯谷氏、ピアニストの白川氏など、プロの音楽家をゲストに招いてコンサートを実施。プロの歌声や演奏が会場全体に響き渡ると、来場者はうつとりと聞き入っていました。発表会の最後には、ゲストの3人と合唱隊OG・OB、隊員たちで合唱し、会場は一体感に包まれました。



市民センターバレエスタジオ 開設40周年記念公演 節目の年を 華やかなステージで祝う

発表会は11月26日、市民センター大ホールで開催され、幼児から社会人までの37人が華やかな舞を披露。幼児や児童は元気いっぱいに体を動かし、中高生は指先や表情にも気を配った繊細な演技で会場を訪れた650人を楽しませました。開設40周年を迎える今年は『遠野物語』第69話の「おしらさま」をモチーフにした創作バレエ「おしらさま」を上演。各節目に上演されてきた同演目には、スターダンサー・バレエ団(東京)から横内国弘氏と東秀昭氏が特別出演し、舞台に花を添えました。舞台にはA・E・L音工房や市内の合唱団、長野しし踊りなども参加。美しい演奏と合唱が会場を包み、幻想的な「おしらさま」の世界が繰り広げられました。



まちの話題^{プラス}

遠野市内の身近な話題や出来事をピックアップ!
今回はいつもより拡大して、開設・結成から節目の年となったイベントを紹介します。

遠野市助産院「ねっと・ゆりかご」 開設10周年記念式典及びフォーラム

お母さんと赤ちゃんに 寄り添って10年

助産院「ねっと・ゆりかご」の開設10周年を記念する式典とフォーラムは、11月18日にあえりあ遠野交流ホールで開催されました。関係者ら300人が参加。式典では助産院の開設や運営に尽力した産婦人科医師ら11人に感謝状が贈られました。その後のフォーラムでは助産院の監督医で、県立大船渡病院副院長の小笠原敏浩医師が講演。小笠原医師は「これまで築いてきた、助産院の助産師と県内産科医療機関、救急隊員との連携が今後も重要」と強調しました。また、産後の不安解消・癒しをコンセプトに妊産婦のケアを行っている健康科学大産前産後ケアセンター(山梨県笛吹市)の榎原まゆみセンター長が講演。その後、小笠原医師と菊池永菜健康福祉部長、榎原センター長の3人で鼎談を実施。最後は全県的に広域的な産前産後ケアの仕組みづくりについて検討するよう提言し、フォーラムを締めくくりました。



1_オープニングセレモニーでは開設10周年をバースデーケーキで祝いました 2_盛岡赤十字病院松田壯正院長に遠野産木材でできた感謝状を贈呈 3_小笠原医師④と榎原センター長⑤を交えて鼎談 4_「ねっと・ゆりかご」の歩みについて話す小笠原医師 5_「ねっと・ゆりかご」の菊池永菜助産師⑥と昆野幸恵助産師⑦が、提言書を読み上げました

2校の存続を求める 1万人の署名を提出



佐々木県議会議長(右)に署名簿を手渡す藤井会長(右から2人目)

市内の20団体で組織される「高校再編を考える市民会議(藤井洋治会長)」の役員と本田市長らは11月24日、県議会を訪問し、佐々木順一県議会議長と高橋嘉行県教育長に対し、遠野高と遠野緑峰高の存続を要望しました。藤井会長は「両校存続を求める市民の総意」として署名簿を県議会議長に提出し、本田市長と新田勝見市議会議長は要望書を県議会議長と県教育長にそれぞれ提出しました。同市民会議は、本年5月から署名活動を開始。市内外の個人・企業・団体などから1万304件の署名を集めました。また、要望書では、少人数学級を導入し教員定数削減の対象外とすることを求めました。

市はこれまで、高校魅力化アクションプランに基づき両校のプロモーションビデオや紹介パンフレットを作成。また、スマートフォンの活用を学ぶ授業や資格取得に対する補助などを実施してきました。市は両校に通学する生徒を対象に、通学費補助などを来年度から実施するための準備を進めています。

県教委は「入学者数の結果を踏まえ、両校の統合について適切に判断する」として、統合の判断は来年3月以降に示されます。



▲高校再編を考える市民会議
今後の要望活動について話し合われました

▶集まった署名
1万304件が市内外から集まりました



11月19日 IBCラジオ遠野FM開局記念番組 菊池幸見アナが遠野を発信

IBCラジオ遠野FM(87.8MHz)の開局を記念し、遠野出身で第1IBC岩手放送のアナウンサー・菊池幸見さんらが、市役所本庁舎でラジオ番組を生放送しました。幸見さんは、遠野弁を交えながら、サッカー、ジンギスカン、郷土芸能などをテーマに軽快なトークを繰り広げ、遠野の魅力を発信しました。



軽快なトークで遠野を発信する菊池幸見アナ

10月31日 第44回遠野市乗用馬市場 300万円超で落札

本州唯一の乗用馬市場は遠野馬の里で開催され、全国各地から駆けつけた購買人が遠野産駒に熱い視線を注ぎました。1~4歳馬30頭を上場。今回の市場最高価格は、照井英人さん=遠野町の所有馬ハディー(2)の312万円でした。売却頭数は16頭(前年比5頭減)で、売上総額は1,820万円(同8.7%減)でした。



最高値をつけたハディー

11月26日 かっぱの会設立20周年記念市民輪投げ大会 笑顔広がる! 輪投げで健康づくり

地域で健康づくりを支援するボランティア団体、市運動普及推進員協議会(通称:かっぱの会。会員52人)は設立20周年を記念し、遠野市総合福祉センターで市民輪投げ大会を開催しました。大会には、市民ら約100人が参加。会員は、子どもからお年寄りまで無理なく楽しく運動できる輪投げの魅力を伝えました。



輪投げを楽しむ参加者

11月27日 「にほんの里100選」記念コンサート バリトン歌手の美声が響く

全国から選ばれた美しい里を巡る同コンサートは、附馬牛地区センターで開催され、中国出身のバリトン歌手、崔宗宝氏が荒城の月など8曲を披露。地域住民や附馬牛小児童ら100人は、崔宗宝氏の美しい歌声に聞き入っていました。最後は、崔宗宝氏と児童が附馬牛小学校歌を歌い、会場に元気な声を響かせました。



崔宗宝氏の美声がホールに響き渡る

11月23日 アメリカンフェスティバル2017 チャタヌーガを感じるイベント開催

米国の文化を紹介するアメリカンフェスティバル(同実行委員会主催)は、あえりあ遠野交流ホールで開催されました。米国チャタヌーガ市と姉妹都市になったことを記念して開かれた同フェスティバルには、家族連れや若者など700人が来場。ホットドッグやハンバーガーなどの米国軽食が用意されたほか、盛岡ピッグブルズチアのステージやカントリーミュージックの生演奏などが披露され、盛り上がりました。昨年から(一財)遠野市教育文化振興財団の国際化推進支援員として活動し、11月末に帰国したアレックスさんは「今度はチャタヌーガ市で遠野市のことを広めていきたい。1年間ありがとうございました」と感謝を述べていました。



(一財)遠野市教育文化振興財団
アレックス・ヒューズさん

10月25日 やまゆりの里で長寿を祝う まきり 宮守町の千葉勝さん100歳

100歳を祝う会は同所で開かれ、家族や施設職員らが祝福しました。飛内雅之副市長が記念品と花束を手渡すと、千葉さんは「ありがとうございます」と感謝しました。千葉さんは、宮守町の出身。奥さんを早く亡くし、農業に励んで1男1女を育て上げました。現在は同所で穏やかに過ごしています。



家族らから祝福される千葉さん(右から3人目)

11月15日 長寿の郷でお祝い会 青笹町の菊池トヨさん100歳

トヨさんの100歳を祝う会が開かれ、家族や施設職員らが長寿を祝いました。飛内雅之副市長が記念品と花束を手渡すと「ありがとうございます」と笑顔で応えました。トヨさんは青笹町出身。結婚後、酪農で生計を立てながら2男3女を育て上げました。現在は孫、ひ孫にも恵まれ、自宅で元気に過ごしています。



妹さんと100歳を祝うトヨさん



1_ステージ発表も行われ、会場に訪れた多くの人がイベントを楽しみました
2_チョコレートファウンテンやドーナツなどが会場内で販売されました